タイトル：スーパーカミオカンデにおける最新結果（大気ニュートリノ、核子崩壊探索、等）発表者：亀田純（ICRR）

要旨：

2016年4月に観測20周年を迎えた本実験であるが本年度も安定した稼働と観測を行い、その最新結果について報告した。大気ニュートリノを用いたニュートリノ振動の研究ではニュートリノの順質量階層性がfavorされ（sin2θ23=0.4,0.6それぞれについてP-value=0.031, 0.007）、また「物質効果がある」ことが2σ以上でfavorされるという結果を得た。核子崩壊探索では最終状態にρ、η、ωを含むモードの探索を更新し、有意な信号は観測されなかったものの最も厳しい寿命の制限を与えた。